

工事区分表

◎印と ⊗印がついた場合は、共に適用する。

[illegible]



位置図(広域) S=1/10,000



付近見取図 S=1/2,500

工 事 概 要

【工 事 場 所】 岡山県岡山市南区市場一丁目1番地

【工 事 種 別】 新築、増築、改築、移転、大規模の修繕、大規模の模様替、その他

【主 要 用 途】 (用途の区分 08610) 卸売市場

(消防法令による防火対象物の用途区分) 別表第15項(コンテナ置場:第15項)

【都 市 計 画 区 域】 内 : [市街化区域, 市街化調整区域, 指定なし]

外

【用 途 地 域】 第 種低層住居専用地域, 第 種中高層住居専用地域, 第 種住居地域, 準住居地域,

近隣商業地域, 商業地域, 準工業地域, 工業地域, 工業専用地域, 指定なし

【防 火 指 定】 防火地域, 準防火地域, 法22条地域, 指定なし

【面 積 規 制】 法定許容建ぺい率 80%

指定建ぺい率 80% 法53条3項の適用 [有 (10%, 20%) , [無]

法定許容容積率 400%

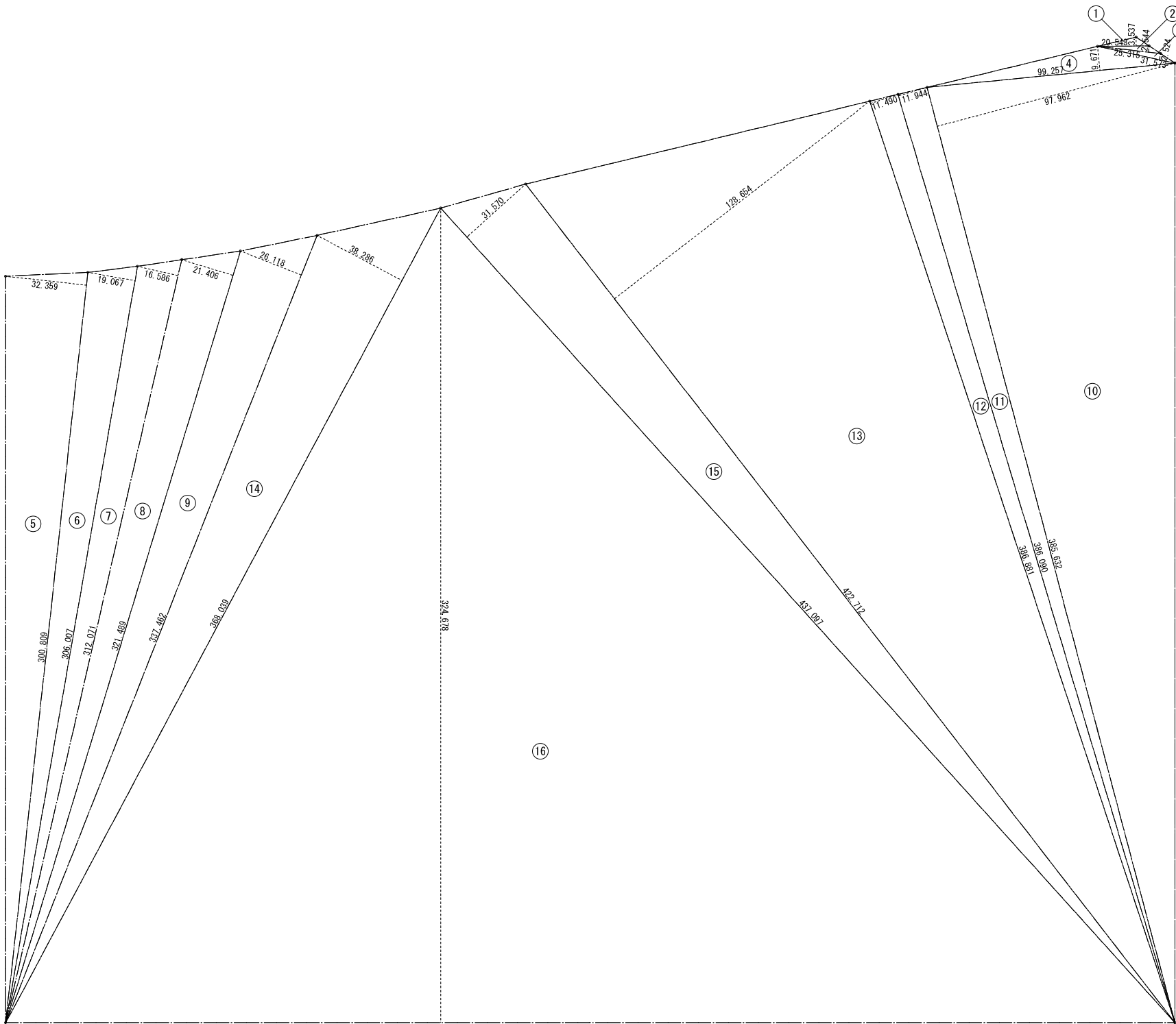
指定容積率 400%, 特定道路からの距離 m, 前面道路に対する乗数 6/10

【敷 地 面 積】 [敷 地 全 体] 159,004.00 m² (48,098.71 坪)

【主 要 面 積】 [建築基準法上の面積]	(申 請 部 分)	(申請以外の部分)	(合 計)	
[建 築 面 積]	550.00 m ²	59,567.63 m ²	60,117.63 m ²	(建ぺい率) 37.81%
[延 床 面 積]	550.00 m ²	72,784.75 m ²	73,334.75 m ²	(容積率) 42.87%
[自動車庫等の面積]	450.00 m ²	4,725.00 m ²	5,175.00 m ²	容積率算定延床面積 68,159.75 m ²

【建 物 番 号】	②					(合 計)
【建 物 名 称】	コンテナ置場					
【用途の区分記号】	(08990)					
【構 造 種 別】	鉄骨造 (その他)					
【最 高 の 高 さ】	() は平均地盤面からの高さ 4.365 m (4.365m)					
【最 高 の 軒 の 高 さ】	() は平均地盤面からの高さ 4.05 m (4.05m)					
【建 築 面 積】	100.00 m ²					100.00 m ²
【床 面 積】						
(階)						
(階)						
(階)						
(階)						
(1 階)	100.00 m ²					100.00 m ²
(合 計)	100.00 m ²					100.00 m ²

工事名	岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事					No.		A-08	
図面名	コンテナ置場 位置図・付近見取図・概要					図 尺	A1:1/10000, 2500 A3:1/20000, 5000		
岡山市市場事業部						令和7年4月			
建 築	課 長	主 幹	課長補佐	副主幹	課 員	担当名			
設 備	課 長	主 幹	課長補佐	副主幹	課 員	担当名	承認	確認	監図



記号	計算式 (m)	倍面積 (㎡)
1	20.543 × 3.537	72.6606
2	25.315 × 2.544	64.4014
3	31.573 × 2.524	79.6903
4	99.257 × 9.671	959.9145
5	300.809 × 32.359	9,733.8785
6	306.007 × 19.067	5,834.6355
7	312.071 × 16.586	5,176.0097
8	321.489 × 21.406	6,881.7936
9	337.462 × 26.118	8,813.8326
10	385.632 × 97.962	37,777.2820
11	386.090 × 11.944	4,611.4590
12	386.881 × 11.490	4,445.2627
13	422.712 × 128.654	54,383.5897
14	368.039 × 38.286	14,090.7412
15	437.097 × 31.570	13,799.1523
16	465.950 × 324.678	151,283.7141
倍面積合計		318,008.0177
合計面積		159,004.0089

(小計は小数点第3位以下切り捨て)

敷地求積図 S=1/1,000

工事名		岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事					No. A-09		
図面名		コンテナ置場 敷地求積図				縮尺	A1:1/1,000 A3:1/2,000		
		岡山市市場事業部				令和7年4月			
建築	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書			
設備	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書			

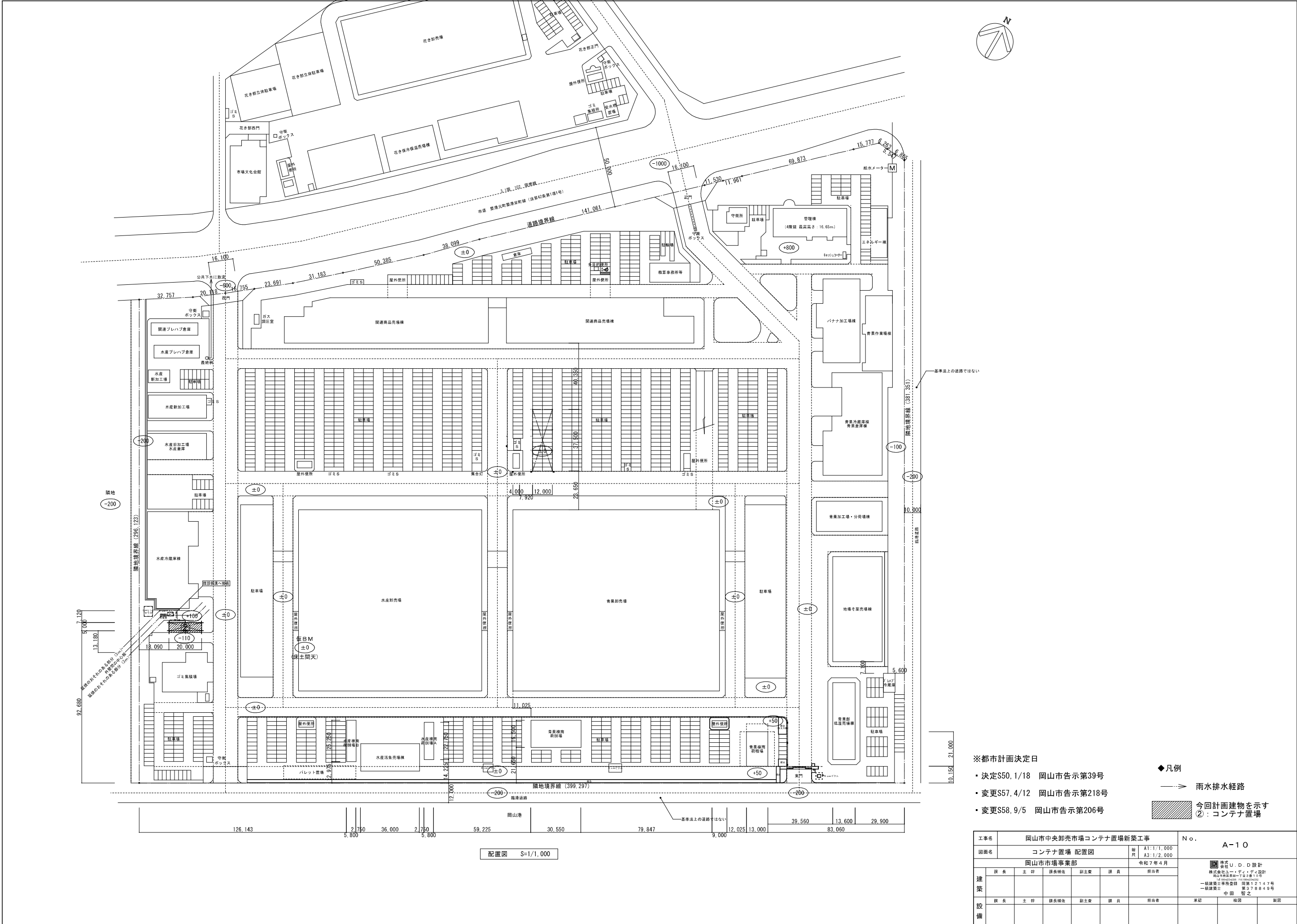
株式会社 U・D・D 設計
株式会社 ユー・ディ・ディ 設計
岡山市東区東田一丁目3番10号
TEL 086-261-7610 FAX 086-261-7611
一級建築士事務所 岡第12147号
二級建築士 第378845号

中田 智之

承認

検印

製図



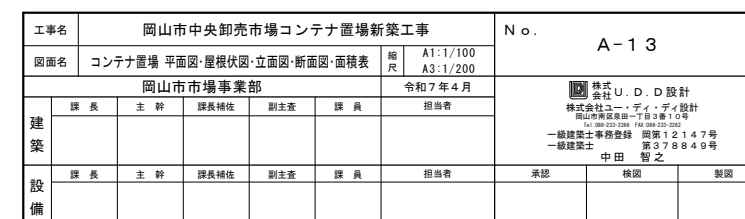
- ※都市計画決定日
- 決定S50. 1/18 岡山市告示第39号
 - 変更S57. 4/12 岡山市告示第218号
 - 変更S58. 9/5 岡山市告示第206号
- ◆凡例
- 雨水排水経路
 - 今回計画建物を示す②：コンテナ置場

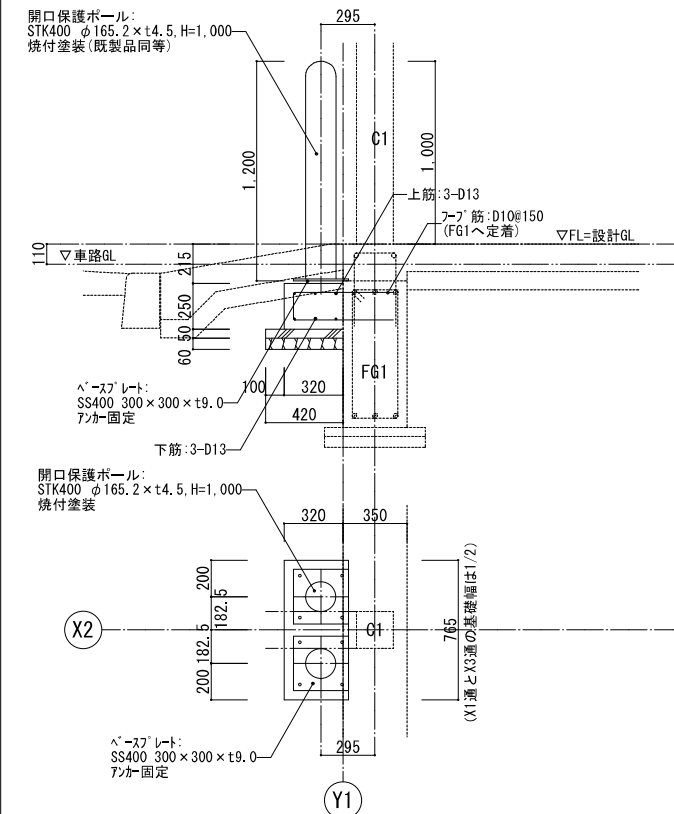
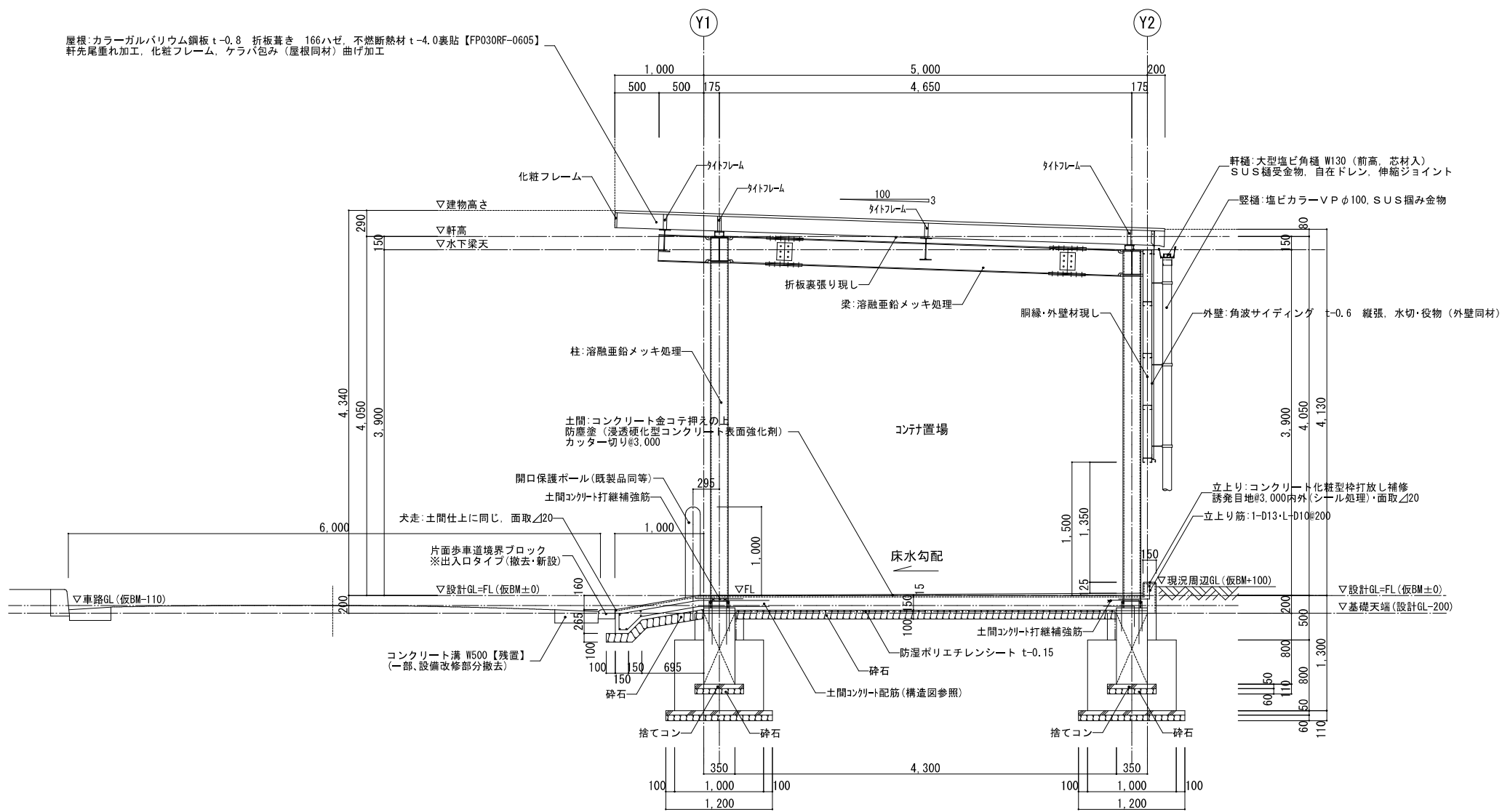
工事名	岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事					No. A-10	
図面名	コンテナ置場 配置図				縮尺	A1:1/1,000 A3:1/2,000	
建築	岡山市市場事業部					令和7年4月	
	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書	
設備	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書	
	承認	確認	製図				

共 通 事 項（特記なき限り下記とする。）		防火材料一覧表							防耐火等認定番号一覧：○耐火建築物・■準耐火建築物（ロー２）・□その他							工事区分表								
		区分	名 称	略 号	規格・寸法	性 能	認定番号	備 考（同等品）	区分	表記・記号	部 位	性 能	認定番号	仕 様	対 象 工 事 等	建築	電気	衛生	空調	別途	備 考			
1. 設計図中の番号「○-○-○」は建築工事標準詳細図（平成28年版）の分類番号を示す。			石こうボード	GB-R	9.5mm	準不燃	QM-9828	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾎｰﾄﾞ			屋根	30分耐火	FP060FL-9095	QL99-50-ｺﾝｸﾘｰﾄ ｵ=80、塩ビｼｰﾄ防水・断熱材 ｵ=25(H12建告第1365号)	事前調査（近隣家屋調査等）					○				
2. コンクリート打放し仕上げは、B種とする。			石こうボード	GB-R	12.5mm、15mm	不燃	NM-8619	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾎｰﾄﾞ			屋根	30分耐火	FP03ORF-1772	硬質木片セメント板 ｵ=18、ｶﾞﾙﾊﾞﾆｼｳﾑ鋼板 ｵ=0.4、立平葺き	原則として図面に記載のあるもの	○	○	○						
3. コンクリート直均し、下地押えの増打り厚さは1-0-1-3、1-0-1-4による。			硬質石こうボード	GB-R-H	9.5mm、12.5mm	不燃	NM-9692	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾊﾞｲﾊﾞｰﾊｰﾄﾞ I			屋根	30分耐火	FP060FL-9095	QL99-50-ｺﾝｸﾘｰﾄ ｵ=80、押えｺﾝｸﾘｰﾄ ｵ=80(H12建告第1399号5項1号)	図面記載以外の什器備品類					○				
4. 土に接す床版下部（消火水槽下は除く）は防湿ポリエチレンシート ｵ=0.15mm/m敷込みとする。			強化石こうボード	GB-F	12.5mm、15mm、21mm	不燃	NM-8615	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾎｰﾄﾞﾀｲﾌﾟ Z			屋根	30分耐火	FP060FL-9095	QL99-50-ｺﾝｸﾘｰﾄ ｵ=80、ﾌﾞﾗｽﾞﾏﾄ防水・断熱材 ｵ=35(H12建告第1365号)	カーテンレール・ブラインド類									
5. 嵩上げコンクリートには溶接金網φ100×100（JISG3551）を施工する。			不燃積層石こうボード	GB-NC	9.5mm	不燃	NM-0441	吉野石膏 不燃 ｳｲﾅｰﾎｰﾄﾞ 9.5	○	R1	屋根	30分耐火	FP03ORF-0605	ｶﾞﾙﾊﾞﾆｼｳﾑ鋼板 ｵ=0.8 折板葺き 166㎜、断熱材 ｵ=4.0裏貼（NM-1196）	カーテン（レース・ドレープ）									
6. 下地は、床はコンクリート直均し仕上げ、天井は軽量鉄骨天井下地とし、壁は壁区分による。			シーシング石こうボード	GB-S	9.5mm、12.5mm	準不燃	QM-9826	吉野石膏 ｳｲﾅｰ防水ﾎｰﾄﾞ			外壁	1時間耐火	FP060NE-9035	押出成形セメント板 ｵ=60 縦張り	消火器	○					ABC粉末10型			
7. 1階及び水廻りに使用するビニル系床材の接着剤は防水工法とする。			シーシング石こうボード	GB-S	12.5mm	不燃	NM-9639	吉野石膏 ｳｲﾅｰ不燃防水ﾎｰﾄﾞ			外壁	1時間耐火	FP060NE-9036	押出成形セメント板 ｵ=60 横張り	消火器ボックス、スタンド、フック	○								
8. 壁石こうボード塗装仕上げの場合、V目地とし、天井高さが2.700までは横目地を設けない。			化粧石こうボード	GB-D	9.5mm	準不燃	QM-0524	吉野石膏 ﾖﾌﾞﾂｰﾄﾝ、ﾏｰﾌﾞﾏｰﾄﾝ			外壁	1時間耐火	H12建告第1399号	軽量気泡コンクリート製パネル ｵ=100～150	厨房機器						○			
9. 内張り仕上げは下地共不燃とし、石こうボード厚12.5（不燃）又は、不燃積層石こうボード厚9.5とする。			化粧石こうボード	GB-NC	9.5mm	不燃	NM-1864	吉野石膏 ﾖﾌﾞﾂｰﾄﾝ、ﾏｰﾌﾞﾏｰﾄﾝ			外壁	1時間耐火	FP060NE-9293	軽量気泡コンクリート製パネル ｵ=50	同上接続工事						○			
10. 柱、はり、下り壁の仕上げは、壁仕上げに準ずる。			化粧石こうボード	GB-Dw	9.5mm	準不燃	QM-0127	化粧石こうボード（和室天井用）			床	1時間耐火	FP060FL-9095	QL99-50-ｺﾝｸﾘｰﾄ ｵ=80	各種設備負担金						○			
11. 石こうボードの出隅は、コーナー保護金物、入隅はジョイントテープをL型に当て、縦目処理を行う。			化粧石こうボード（和室天井用）	GB-Dw	12.5mm	不燃	NM-9824	吉野石膏 ﾕｰﾌﾟﾗﾝ-S			柱	1時間耐火	FP060CN-9200	柱合成被覆：押出成形セメント板 ｵ=60+吹付ﾛｯｸﾜｰﾙ ｵ=30	各種設備引込み			○	○					
12. 断熱材の吹付けを行う場合、範囲は7-0-1-2による。			吸音用穴あき石こうボード	GB-P	9.5mm	準不燃	QM-9827	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾄｰﾝ			梁	1時間耐火	FP060BM-9171	梁合成被覆：押出成形セメント板 ｵ=60+吹付ﾛｯｸﾜｰﾙ ｵ=30	同上本管、本線接続一次側工事									
13. 天井仕上げが縦張り以外の岩綿吸音板の場合、石こうボード厚12.5（不燃）の下張りを行う。			化粧石こう吸音ボード	GB-NC	9.5mm	不燃	NM-0879	吉野石膏 ｳｲﾅｰｽﾏｲｱｰﾄﾝ-D			階段	30分耐火	H12建告第1399号	梁合成被覆：押出成形セメント板 ｵ=60+吹付ﾛｯｸﾜｰﾙ ｵ=30	機械管巻、有線放送用配管工事									
14. 階段室の天井仕上げは最上階の天井仕上げを示し、段裏は特記による。			吸放湿石こうボード	GB-R-Hc	9.5mm	準不燃	QM-0172	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾊﾞｸｸﾘｽﾏﾙｷｯﾄﾞ			開口	防火設備	個別認定	延焼のおそれのある部分	機械管巻機器及び二次側工事									
15. 床仕上げの材質が異なる箇所の取り合いは、ステンレス製見切り（SUS304）1形 3.0×12を使用する。			吸放湿石こうボード	GB-R-Hc	12.5mm	不燃	NM-0530	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾊﾞｸｸﾘｽﾏﾙｷｯﾄﾞ							有線放送契約引込み及び機器工事									
16. 鉄鋼面の錆止めは工場1回、現場1回行う。			構造用石こうボード	GB-St	12.5mm	不燃	NM-8615	吉野石膏 ｳｲﾅｰﾎｰﾄﾞﾀｲﾌﾟ K/A							電話配管工事									
17. 特記無き場合、内端木、鉄部、垂れめっき面の見え掛り部分はSOPとする。			曲面用繊維混入石こうボード	RGB	5mm、6mm、8mm	不燃	NM-2967	A & A M ﾈﾌﾞｰﾎｰﾄﾞ							電話引込み一次側工事									
18. LGS下地に手摺、欄等が取付く場合は、下地補強を行う。			内外装用フレキシブル板	HB	5mm、6mm、8mm	不燃	NM-8576	A & A M ﾓﾙﾌﾘｸｼﾞﾙ							電話機器及び二次側配線工事									
19. 便器等設備機器取付場所には、下地補強を行う。（建築工事）			けい酸カルシウム板	KB	6mm、8mm、10mm、12mm	不燃	NM-4971	A & A M ﾎﾟﾗｸﾞﾗﾌ							テレビ共聴設備工事									
20. 図面内の指定特記のないメーカー名、製品名はすべて同等以上とする。			化粧けい酸カルシウム板（単色）	KB-Dp	6mm	不燃	NM-3455	A & A M ﾈﾌﾞﾄﾞ#500			FW1	面積区画壁	1時間耐火	FP060NP-0174	強化P B ｵ=12.5 両面2重張り	自動ドア、電動シャッター及び建具内配機								
21. 使用する建築材料は、全て国土交通大臣の指定する日本工業規格又は日本農林規格適合品とする。			化粧けい酸カルシウム板（木目）	KB-Dw	6mm	不燃	NM-3604	A & A M ﾈﾌﾞﾄﾞ#400木目			FW2	面積区画壁	1時間耐火	FP060NP-0007	強化P B ｵ=21 片面2重張り＋目地処理	同上電源送り及びスイッチ								
22. 規制対象外以外の内装仕上げ、家具、建具等に使用する材料は、接着剤を含めすべてF☆☆☆☆とする。			化粧けい酸カルシウム板（石目）	KB-Ds	6mm	不燃	NM-3430	A & A M ﾈﾌﾞﾄﾞｼｰﾂ-ｼ			FW3	面積区画壁	1時間耐火	FP060NP-0071	強化P B ｵ=21 片面2重張り＋P B ｵ=12.5張り	電気配本体及び建具内配管、配線								
23. 天井裏の仕上げ等に使用する材料はF☆☆☆☆とする。			メラミン不燃化粧板	MP	3mm	不燃	NM-2183	アイカ ｾｰﾙ			FW4	114条1境界壁	1時間耐火	FP060NP-0174	強化P B ｵ=12.5 両面2重張り・下地ｽﾀｯﾄﾞ 千鳥配置	同上制御設備								
24. 法28条の2 号：石綿等をあらかじめ添加した建築材料を使用しないこと。			岩綿吸音板（平）	RB	9mm、12mm	不燃	NM-8599	吉野石膏 ﾖｰﾗｰﾄﾝ			FW5	114条2境界壁	1時間耐火	FP060NP-0174	強化P B ｵ=12.5 両面2重張り	便所廻りの手摺工事								
25. 法37条に適合する建築材料を使用すること。			岩綿吸音板（リブ）	RB	12mm、15mm、19mm	不燃	NM-8599	吉野石膏 ﾖｰﾗｰﾄﾝ			FW6	30条（各戸界壁）	遮音構造	S01-0110	強化P B ｵ=12.5 両面2重張り・下地ｽﾀｯﾄﾞ 千鳥配置	同上取付のための補強及び下地工事								
26. カーテン、カーベット類を使用する場合、別途工事を含め防災認定品を使用する。			グラスウール	GW	10K～32K	不燃	NM-8605				FW7	35条の3（無窓）	不燃材		P B ｵ=12.5（両面）張り ※下地・仕上共、不燃材料	特記以外の化粧壁								
27. 防火区画、防火上主要な間仕切りを貫通する設備配管等は、令第112条第20項及び第129条の2の4Iに適合するものとする。			グラスウール（ガラスクロス張）			不燃	NM-8604				FW8	防護壁	不燃材		P B ｵ=12.5（両面）張り ※下地・仕上共、不燃材料	同上取付のための補強及び下地工事								
28. 防火区画、防火上主要な間仕切りは小屋裏又は、天井裏に達しないこと。			ロックウール			不燃	NM-8600				FW9	防護垂壁	不燃材		繰り入り磨きガラス ｵ=6.8（免震タイプ）	本工事に含む設備機器の基礎								
29. 区画壁等隙間四周処理、デッキプレート下端隙間処理は該当区画壁・界壁と同等とすること。		○	吹付ロックウール			不燃	NM-8601									繰り入り磨きガラス ｵ=6.8（免震タイプ）	本工事に含む設備機器のアンカー、架台							
30. P S、E P S、D S、M Bの区画は、特記ない限り水平区画とする。			塗装／亜鉛メッキ鋼板			不燃	NM-8697																	
31. 法35条の3：無窓の居室等を区画する主要構造部を耐火構造とし、又は不燃材料で造ること。			塗装			不燃	NM-8585																	
32. テントを使用する場合、不燃を要する箇所は防災A種とし、その他支障のない箇所は防災C種とする。																								
33. 法第22条地域内で、屋根に規制範囲内でアクリル樹脂系製品及びポリカーボネート樹脂系製品を使用する場合は、準難燃認定品以上のものを使用する。																								
		壁装材防火種別一覧表（壁装材は全て防火施工管理ラベル貼とする。）							耐火被覆認定番号一覧															
		区分	表記・記号	部 位	性 能	認定番号	仕 様																	
		耐火被覆A1							柱	1時間耐火	FP060CN-9458、9459、9460	吹付けロックウール ｵ=25	既存工作物解体工事							○				
		耐火被覆A2							梁	1時間耐火	FP060BM-9406、9407、9408	吹付けロックウール ｵ=25	歩道切下げ工事								申請、届出等は切下げ工事に含む			
		耐火被覆B1							柱	2時間耐火	FP120CN-9461、9462、9463	吹付けロックウール ｵ=45	外構工事							○				
		耐火被覆B2							梁	2時間耐火	FP120BM-9409、9410、9411	吹付けロックウール ｵ=45	植栽工事											
		耐火被覆B3							柱	1時間耐火	FP060CN-9414、9445	けい酸カルシウム耐火被覆板 ｵ=20	図面記載以外の補装工事											
		耐火被覆B4							梁	1時間耐火	FP060BM-9362、9393	けい酸カルシウム耐火被覆板 ｵ=20	※ 上記以外で図面に記載のあるものは、全て本工事に含むものとする。											
		耐火被覆B5							柱	2時間耐火	FP120CN-9415、9452	けい酸カルシウム耐火被覆板 ｵ=35	※ 別途工事のうち本工事期間中に工事を必要とするもの、取合、補強等があるものについては、請負者の統括のもと事前に充分な打合せを行い施工すること。											
		耐火被覆B6							梁	2時間耐火	FP120BM-9363、9400	けい酸カルシウム耐火被覆板 ｵ=35												

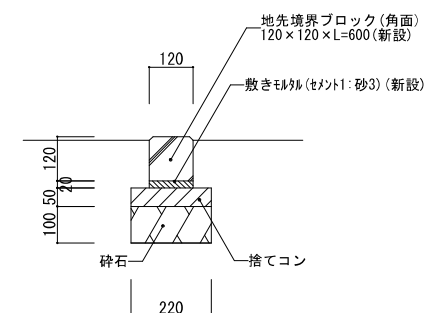
[illegible][illegible]

主 要 材 料 一 覧												断 熱 材																			
区分\ 表記・記号				仕 様				備 考				区分\ 表記・記号				仕 様				備 考				区分\ 部位				仕 様			
屋 根 材	○	折板葺き	カラーガルバリウム鋼板	t=0.8	J I S G 3 3 2 2	防 水 材	○	アスファルト防水	屋根露出防水糸結断熱工法	D 1 - 2	外 壁 材	○	ALC板	軽量気泡コンクリートパネル	J I S A 5 4 1 6	外 装 仕 上 材	○	外装薄塗材 E	アクリルリシン	J I S A 6 9 0 9	断 熱 材	○	屋根根	不燃断熱材 t=4.0裏貼							
	△	立平葺き	カラーガルバリウム鋼板	t=0.4	J I S G 3 3 2 2		△	加硫ゴムシート防水	合成高分子系F-700 防水断熱工法	S I - F 1		△	ECP板	押出成形セメント板	J I S A 5 4 4 1		△	可とう形外装塗装材 E	弾性アクリルリシン	J I S A 6 9 0 9		△	天井裏	グラスウール t=100 (2.4 kg/m3)							
	▽	瓦葺き	カラーガルバリウム鋼板	t=0.4	J I S G 3 3 2 2		▽	ビーシート防水	合成高分子系F-700 防水断熱工法	S I - F 2		▽	窯業サイディング	窯業系外装材	J I S A 5 4 2 2		▽	複層塗材 E	アクリルタイル	J I S A 6 9 0 9		▽	外壁に面する部分	グラスウール t=100 (2.4 kg/m3)							
	△	金属瓦葺き	カラーガルバリウム鋼板	t=0.4	J I S G 3 3 2 2		△	金属膜防水	ウレタンゴム系金属膜防水	X-2		△	金属サイディング	金属製外壁材	J I S A 6 7 1 1		△	複層塗材 F E	水性エポキシタイル	J I S A 6 9 0 9		△	間仕切壁	グラスウール t=50 (2.4 kg/m3)							
	△	瓦葺き	△瓦葺き				△	タイルサイディング	M-3 16WD	NS-X1		△	角波サイディング	鋼板製外壁材	J I S G 3 3 2 2		△	外装壁タイル	300角磁器質タイル	ノンスリップ		△	床下ラップ	極厚ウレタンフォーム1種 t=30							
	△	洋瓦葺き	M型洋瓦葺				△	FRP防水	建築学会・通気緩衝仕様	L-F S		△	サンドイッチパネル	金属サンドイッチパネル			△	外装壁タイル	外装壁用セラ質タイル	LIXIL : A E - 2 5 7 A 7 0 0 同等		△	床下ビット打込み	A 種押出法ポリエチレンフォーム3種 t=25							
床 材	符号	表記・記号	仕 様		備 考	符号	表記・記号	仕 様		備 考	符号	表記・記号	仕 様		備 考	略号	仕 様		略号	仕 様											
	F1	長尺塩ビシート(A)	複層塩ビ床シート(FS) t=2.0		マーブル・柄物	C1	化粧石膏ボード	トラバーチン柄 t=9.5		不燃:NM-1864	C-3	排水溝・排水樹	アルミ製グレーチング H=32 P=17		日本ビッ 同等	RC	コンクリート下地		SOP	合成樹脂調合ペイント塗り											
	F2	長尺塩ビシート(B)	複層塩ビ床シート(FS) t=2.0		消臭・抗菌・防汚	C2	化粧吸音ボード	化粧石膏ボード t=9.5		不燃:NM-0879	C-4	サンタリービット	ダスタービット I-J型 JP-DPJ(SUS304)		日本ビッ 同等	S	鉄骨下地		EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り											
	F3	長尺塩ビシート(C)	防汚性複層塩ビ床シート(FS) t=2.0		厨用	C3	岩綿吸音化粧板(平)	トラバーチン柄 t=9.0 捨て貼り工法		不燃:NM-8599	C-5	ビット・排水樹	SUS304 PL1.5t 目地HL(溶接塩ビゴム付)		日本ビッ 同等	LG	軽量鉄骨下地		EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り											
	F4	塩ビ床タイル	複層塩ビ床シート(FOA) t=4.0		木目・石目・柄物	C4	ケイカル板(A)	けい酸カルシウム板 t=6.0(実付)		不燃:NM-8578		面台(A)	メラミン化粧板ベストフォーム t=19		7巾UYA同等	LSGS	軽量鉄骨下地(高耐食基材)		EP-T	合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り											
	F5	コンパシブタイル	コンパシブ床タイル(KT) t=2.0		300×300	C5	ケイカル板(B)	けい酸カルシウム板 t=6.0(底目地)		不燃:NM-8578		面台(B)	ステンレス製(SUS304) t=1.5HL		曲げ加工	W	木下地		NAD-M	多層模様塗料塗り											
材	F6	複合70-リッパ	複合70-リッパ けい酸塗装 t=15.0		単板厚3mm	OA	○ Aフロア	フリーアクセスフロア(ｽﾎｰﾙ製)		ﾌｳﾋﾞ:FK5000R同等		コンパクトキッチン	1H(2口) 電気温水器 吊戸棚 レンジフード		ﾘﾝｶﾙ:ﾐﾈｷﾔ同等	CB	コンクリートブロック下地		EP-M	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り											
	F7	複合70-リッパ(B)	複合70-リッパ けい酸塗装 t=15.0		単板厚3mm・床暖房用	OF	ﾌﾘｰﾌﾛｱｰ	乾式二重床システム(CP工法)		ﾌｳﾋﾞ:CP-F同等		ミニキッチン	間口1,200 電気温水器 棚		ﾘﾝｶﾙ:ﾐﾈｷﾔ同等	PB	石膏ボード		FE	フタル酸樹脂エナメル塗り											
	F8	磁器質床タイル(A)	300角磁器質 ノンスリッパタイル		屋外用・玄関用	I-1	手すり(A)	樹脂製φ34 (抗菌) ﾌﾞﾗｯｸﾁｬｰ2段		ｶｶ工業:ﾐﾈｷ同等	そ の 他	ユニットシャワー	JSV0812(内法W1,200×D800)		TOTO:ｼｬｰﾎﾞﾙ同等	CM	モルタル下地		VE	塩化ビニル酸樹脂エナメル塗り											
	F9	磁器質床タイル(B)	150角磁器質 ノンスリッパタイル		玄関用	I-2	手すり(B)	樹脂製φ34 (抗菌) 支柱型・SUS HL		同上:ｼｬｰ同等			洗面化粧台・化粧鏡	LDA756BEURA+LMA750DC(W750×D545)		TOTO:ｽﾄｰﾝ同等	CON	嵩上げコンクリート下地													
	F10	建材畳	ｽﾀｲﾙ畳(D種) t=50 畳表樹脂製		K T - Ⅲ	T-3	手すり(C)	樹脂製φ34 (屋外用) ﾌﾞﾗｯｸﾁｬｰ2段		同上:ｸﾞﾗﾌﾞ同等			大型化粧鏡	ﾌﾘｰｾﾞｰｽﾞ大型鏡		TOTO:MMA1同等	SL	セルフレッシング													
	F11	防塵塗	浸透硬化型コンクリート表面強化剤		ｸﾘｱ	○	コーナガード(A)	軟質樹脂製コーナ保護膜		同上:ｴﾁｰﾐｰﾝ同等			壁付ハンガー	機能性ハンガー(スライド付付き)		ﾌｳﾋﾞ:ｸﾞﾗﾌﾞ同等	FF	乾式二重床													
W1	V.C(1)	ビニールクロス (不燃)		AA, ABランク	◇	コーナガード(B)	ステンレス製(SUS304) t=1.5HL		曲げ加工			室内物干し金物	天井埋込み型昇降物干しユニット		DAIKEN:ｷﾞのほし上手	OA	フリーアクセスフロア														
W2	V.C(2)	ビニールクロス (準不燃)		AA, ABランク			段鼻ノンスリッパ		室内木階段 素足用ノンスリッパ	ｱﾝｽﾄ:PrevioM103同等			ピックアップレール	アルミ製(後付埋込) 30kg, ﾌｳﾋﾞ(2個/m		神楽:SK-PR同等	符号	法令・告示													
材	W3	内装壁タイル	内装壁用磁器質タイル				ﾎﾞｰﾀｲﾙ(細割)		ｶｷﾞ: MSE0-M同等			吊下げカーテン	カーテン(防炎) タッセル, フック		ｳﾅﾞ: ｺﾝﾄﾗﾌ同等	排 煙 設 備	㊟	自然排煙		建 築	課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当者	承認	検 査	製 図		
	W4	化粧ケイカル板(A)	化粧けい酸カルシウム板 t=6.0		単色	FH1	床下点検口(A)	ステンレス製密閉型(充填用) □600				吊下げ式レール	固定吊棒, アルミ製レール(静音式)		ｳﾅﾞ: ｺﾝﾄﾗﾌ同等		㊦	機械排煙			設 備	課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当者	承認	検 査	製 図	
	W5	化粧ケイカル板(B)	化粧けい酸カルシウム板 t=6.0		木目調	FH2	床下点検口(B)	アルミ製一般型 □600(70-リッパ 材用)		ﾌｳﾋﾞ: AT同等		消火器ボックス	スチール製厚付き(全埋込型)		ｺﾜ: UFB1F2204同等		㊧	昭和46年10月27日住指発第744号				課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当者	承認	検 査	製 図	
	W6	化粧板(ヒノキ)	県産材 桧板 t=15(不燃材処理)		不燃:NM-1701	C-1	排水溝蓋(屋外)	SUS製グレーチング ノンスリッパ		日本ビッ 同等		消火器スタンド	スチール製厚付き型		ｺﾜ: UFB3F308PH同等		㊨	国土交通省告示I436号4の2(1)～(4)					課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当者	承認	検 査	製 図
						C-2	排水樹蓋(屋外)	ステンレスグレーチング		日本ビッ 同等		消火おアレーター	手動(埋込), 遮断し防止機構		豊和:MN23AR同等		㊩	令126-2-1-3～5													





⑤ 地先境界ブロック 詳細図 (新設)



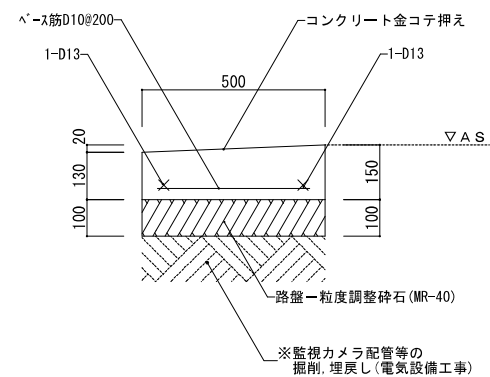
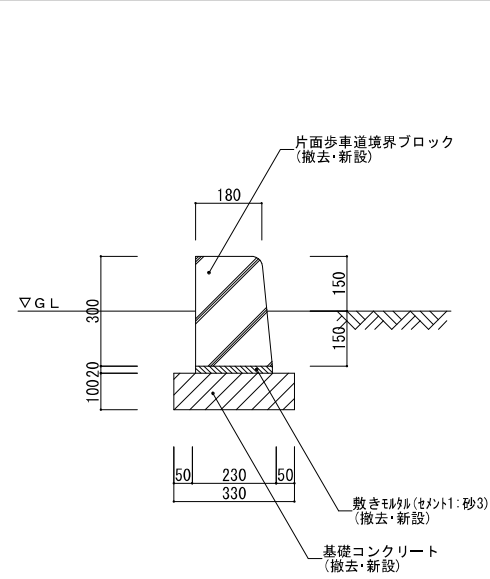
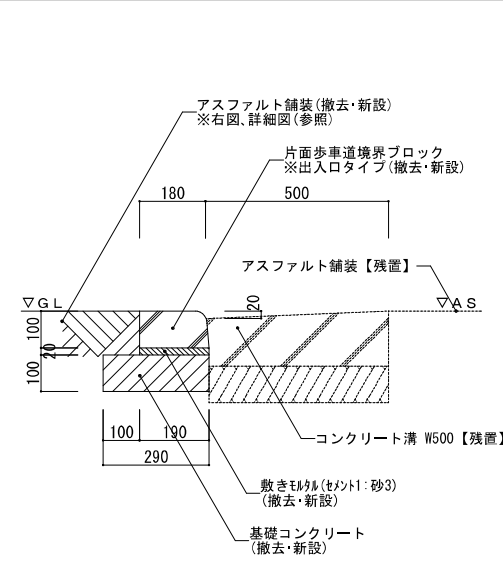
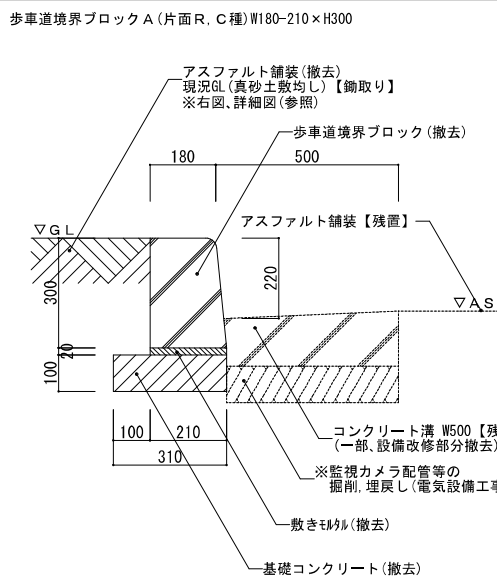
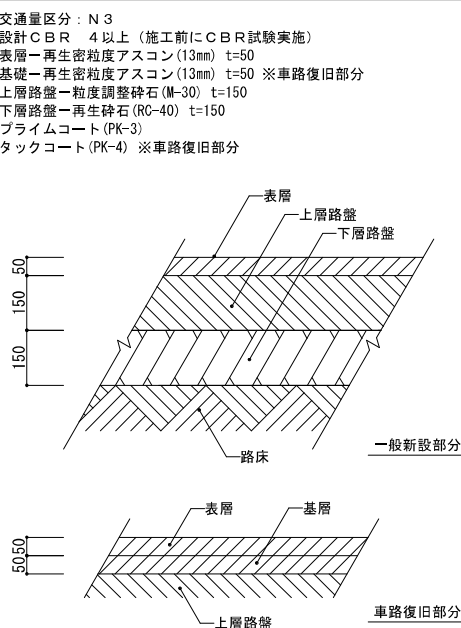
⑥ 普通アスファルト舗装 詳細図(撤去・新設共)

⑧1 既存歩車道境界ブロック 詳細図(撤去)

⑩ 歩車道境界出入口用ブロック 詳細図(撤去・新設共) S=1/10

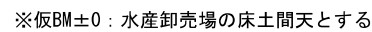
⑬ 既存歩車道境界ブロック 詳細図(撤去・新設共)

④ 既存コンクリート溝 断面詳細図（撤去・復旧共）



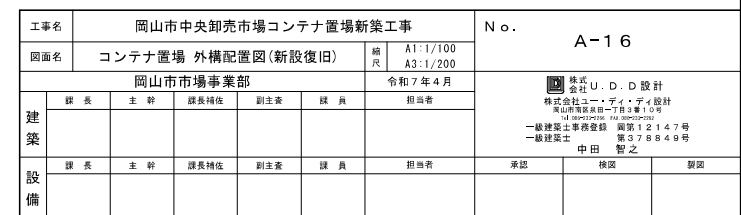
工事名	岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事					No.		A-14	
画面名	コンテナ置場 断面詳細図・部分詳細図					図尺	A1:1/10 1/20 1/30 A3:1/20 1/40 1/60		
岡山市市場事業部						令和7年4月			
建築	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書			
						 株式会社ユー・ディ・ディ設計 岡山事務所 岡山市北区下江崎3-1-10号 TEL 086-822-0001 FAX 086-822-0002 一級建築士事務登録 昭和12年4月7号 一級建築士 中田 聖之 昭和7年8月4日号			
設備	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当書			
						承認	確認		

-



工事名	岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事				No.		A-15	
画面名	コンテナ置場 外構配置図(解体撤去)			縮尺	A1:1/100 A3:1/200			
岡山市市場事業部					令和7年4月			
建築	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当者	 株式会社ユー・ディ・ディ設計 岡山県高梁市上郷町7-15-15 tel 0866-22-1100 fax 0866-22-1101 udd@uuddesign.co.jp udd@uuddesign.co.jp 一級建築士事務所登録 登録12147号 一級建築士 第378849号	
	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当者	承認	中田 智之
設備	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当者		

-



構造特記仕様書

2022年度版

§1 一般事項

選択項目は○印を適用し、○印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の特記事項は下記による。
1) 本特記仕様書
2) 設計図
3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

○鉄骨工作標準図

鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

高強度せん断補強筋施工仕様書

鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4) 仕様書

○公共建築協会

※日本建築協会

5) 日本建築学会標準仕様書

JASS5

JASS6 (最新版とする)

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に()含む()含まない()

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は()意匠図()構造図()設備図()による。
1-7 1) 屋根葺き材・外装材・屋外帳壁の構造体への取付き及び風圧に対する構造強度等の技術的基準は令39条・令82条の4(平成12建告第1458号)に適合すること。

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート			
X	○ルート1-2	・ルート2	・ルート3	・
Y	○ルート1-2	・ルート2	・ルート3	・

2-2

鉄筋の継手(定着については設計図若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
○建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
・日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
・日本建築学会 RC標準2018
XY両方向共ルート3及び境界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2018とすることができる。
2-3 重要度係数(用途係数)
用途係数の区分と対象建築物 : 区分(Ⅲ)＝1.00

§3 仮設工事、土工事

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分(意匠図による)
埋戻し土 ※根切り土の中の良土
盛土 ※根切り土の中の良土
残土処分 ※場内地均し ※場外搬出処分(※自由・指定場所)

§4 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場 所	捨てコンクリート厚さ	注1) A : 砕 石 B : 割栗石	厚 さ	
基 礎	独立、布	○50・60・100	○A・B	○60・100・150・
	ベ タ	※50・60・100	※A・B	※60・100・150・
基 礎 梁		○50・60・100	○A・B	○60・100・150・
構造スラブ		※50・60・100	※A・B	※60・100・150・
土間コンクリート	屋内	※50・60・100	※A・B	※60・100・150・
	屋外	・50・60・100	・A・B	・60・100・150・

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを行込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。

4-2 設計地耐力
長期 kN/m² 短期 kN/m² 終局 kN/m²
地耐力載荷試験 ・ 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) ※ 行わない
4-3 地盤改良
・ 無筋コンクリート地業
・ 締固め工法
・ セメント系固化材攪拌
・ 圧密排水工法
[・ 載荷試験
・ 一軸圧縮試験] ・ 行う (箇所) ※ 行わない
[・ 六価クロム溶出試験] ・ 行う ※ 行わない
4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1) 杭種
○ PHC杭
・ ST杭
・ SC杭 tmm
・ PRC杭
・ 節杭
・ 鋼管杭
○ A種
・ A種
・ 12mm
・ I種
・ A種
・ B種
・ C種
・
・
・
・ II種
・ III種
・ IV種
・
・
・
・
2) 工法
・ 打撃工法
・ 埋込み工法
・ 油圧ハンマー
・ ディーゼルハンマー
・ プレローピング拡大根固め工法(認定工法)
杭間固定液 ※あり・なし
○ RODEX工法(砂質地盤 旧法第38条既認定番号 FK093)
3) 杭径、設計耐力、本数表

杭径(符号)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
φ350 (P1)	300	600		6	

§5 鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
○SD295	D 16 以下	○重ね継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接
○SD345	D 19 以上 D 25 以下	・ 重ね継手 ※ 溶接継手 ・ 機械継手
・ SD390	D 29 以上	※ 溶接継手 ・ 機械継手(級)
・ SD490	D 以上	※ 溶接継手 ・ 機械継手(級)
溶接金鋼		・ 重ね継手
・ 高強度せん断補強筋	・ 1275級 ・ 785級 ・ 685級	P K U ・ フック加工 ・ スパイラル ・ 工場溶接

溶接継手 ○ ガス圧接
・ 突き合せ溶接 (D 16 以下は重ねアーク溶接でも可)
・ 新N T工法等の評定取得工法
5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
○ 各工法、認定・評定条件による
○ 抜取り検査
・ 引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき ※ 3本
・ 原則 柱・梁の径毎に3本
○ 超音波探傷試験(JISZ3062)
1検査ロットにつき ○ 30箇所
・ 熱間押抜き試験
・ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数値で200箇所以内
5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)
5-4 梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
5-5 その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ○ ①一般
・ ②地反力を受ける
・ ③上載荷重が大きい場合
とす。
梁の余長Lの採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効長) ○ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ※ min(D' , L) ○ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスプーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1

レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)
1) セメント
○ 普通* トランドセメントJISR5210
・ 高炉セメントB種
・ 低熱* トランドセメントJISR5210
2) 粗骨材
・ 砂利
・ 砕石
・ 高炉スラグ骨材
・ 人工軽量骨材
・ 再生骨材
最大径(mm)
○ 20
・ 25
・ 40
3) 設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
○ 普通コンクリート
・ Fc18
○ Fc21
・ Fc24
・ Fc27
・ Fc30
・ Fc
・ Fc
・ 軽量コンクリート(※ 1種
・ 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5
・)
・ LFc18
・ LFc21
・ LFc24
・ LFc27
・ LFc30
・ LFc
4) 土間コンクリート ○ Fc 21 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)
5) 捨てコンクリート ○ Fc 18
6) 防水押さえコンクリート ・ Fc
・ LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5
・)
7) かき上げコンクリート ・ Fc
・ LFc (気乾単位容積質量 ※ 18.5
・)
6-2 混和材 ※ AE減水剤
・ 高性能AE減水剤
・ 躯体防水材
・ 膨張材
注1). 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。
6-3 ※監理者と協議の上決定すること。

箇 所	基礎、基礎梁	一 般		備 考
スランブ	cm	15		
水セメント比	%	60		60以下
単位水量	kg/m ³	185		185以下
単位セメント量	kg/m ³	270		270以上

注2). スランブは特記なき限り施工者が決める監理者に報告する。
6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)
1) 骨材 [○ 塩分含有量
・ アルカリシリカ反応性] ※ 行う
・ 行わない
2) フレッシュコンクリート [○ スランブ
・ 空気量] ※ 行う
・ 行わない
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ※ 行う
・ 行わない
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ※ 行う
・ 行わない
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ※ 行う
・ 行わない
6) 単位水量測定 ※ 行う
・ 行わない
6-5 調合(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d
・ 短期(18)
・ 標準(24)
・ 長期(30)
・ 超長期(36)
調合管理強度 F_m=Max(○ F_d)+S
S=3~6
材齢28日の調合強度Fは下記の式を満足するものとする。
F≥F_m+1.73σ
F≥0.85F_m+3σ

§7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通し ダイヤ	内 ダイヤ	大梁	グレース	小梁 他
一般構造用圧延鋼材	○ SS400	・				○	○
溶接構造用圧延鋼材	・ SM400A ・ SM400A	・ SM490A					
建築構造用圧延鋼材	・ SM400B ・ SM400C	○ SM490B ○ SM490C		○			○ (ベ-ス・レ-ド)
一般構造用角形鋼管	・ STKR400 ・ STKR490						
冷間成形形鋼管	○ BCR295 ・ BCP235	・ BCP325	○				
熱間成形形鋼管	・ SHC400B ・ SHC490B	・ SHC400C ・ SHC490C					
一般構造用炭素鋼管	・ STK400 ・ STKM400	・ STK490 ・ STKM490					
一般構造用軽量形鋼	○ SSC400	・					○
建築構造用圧延棒鋼	○ SNR400					○	

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルンシア高力ボルト	※ S10T 全般
JIS形高力ボルト	・ F10T トルンシアが使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	○ F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	・ S14T 屋内環境

7-3 普通ボルト、アンカーボルト
1) 材質 ○ SS400
・ SS490 (M 以上)
・ ABR400
・ ABR490
・ ABM400
・ ABM490 (ABMはM24以上)
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ○ 使用する
・ 使用しない
7-4 頭付きスタッド

径	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16 φ	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	
19 φ	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	
22 φ	・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	

7-5 溶接材料
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スカラップ形状 ※ ノンスカラップ工法 ○ スカラップ工法
7-7 継手

	柱	梁
フランジ	・ 高力ボルト ・ 現場溶接	○ 高力ボルト ・ 現場溶接
ウェブ	・ 高力ボルト ・ 現場溶接	○ 高力ボルト ・ 現場溶接

7-8 溶接方法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全横協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAW検定の有資格者が行うとする指定を ※ 行う
・ 行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技量検定付加試験を ※ 行う
・ 行わない
但し、代替タブのAW検定有資格者は技量検定付加試験を免除する。
7-9 デッキプレート (単位 mm)
1) 床用 高さ
・ 板厚
・
2) 合成スラブ用 高さ
・ 板厚
・
3) 型枠用 高さ
・ 板厚
・ 形板
タイプ
4) 防錆処理 ・ プライマー
・ 亜鉛メッキ
・ Z12
・ Z27
7-10 塗装(工場塗 ※ 2回
・ 1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整 ※ ケレン
・ プラスト
2) 下塗り用塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
屋外、室内			
※ ※	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	※ 1種 ※ 2種 30 μm
・	水系さび止めペイント	JASS18 M-111	
・	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	・ 1種 ・ 2種 40 μm
・	有機ジンクリッチプライマー	JISK5552	・ 2種 15 μm
・	構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ○ 行う
・ 行わない
4) 常溫亜鉛メッキ ・ 行う
○ 行わない
・ 用いる
○ 用いない
5) 高耐食メッキ鋼板(t3.2mm以下)
・ 用いる
○ 用いない

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1

コンクリートブロック
1) 種類
・ A 種
・ B 種
・ C 種
2) 厚さ mm
・ 100
・ 120
・ 150
・ 190
8-2 ALC パネル
1) 使用箇所
・ 床
・ 屋根
・ 外壁
・ 内壁
2) 厚さ mm
・ 75 (80)
・ 100
・ 120 (125)
・ 150
・ 175
3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・ ロッキング構法		
横	・ アンカー構法		

8-3 押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	・ ロッキング構法		
横	・ スライド構法		

8-4 PCa板
1) 床及び屋根
・ PCa板単 厚さ mm
・ 合成板
PCa板厚さ mm 現場打厚さ mm 合計厚さ mm 備 考

2) 外壁 厚さ mm
・
・

§9 建築設備の構造強度 令第129条の2の3の事項

9-1

建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。
・ 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものとする事
・ 屋上から突出する水槽・煙突・冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という)は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する事
・ 煙突の住生突出部の高さは、れんが造・石造・コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は、鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とする事
・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さは5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが25cm以上の無筋コンクリート造・石造若しくはコンクリートブロック造とする事
・ 建築物に設ける給水・排水その他の配管設備(給湯設備*)を除く)は下記による事
・ 風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする事
・ 建築物の部分貫通して配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等、有効な管の損傷防止のための措置を講ずる事
・ 管の伸縮その他の変形により当該配管に損傷が生じる恐れがある場合に於いて、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずる事
・ 管を支持し、又は固定する場合に於いては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずる事
・ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする事
・ 給湯設備*)は、風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする事
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法による事
* 1「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

工事名

岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事

N o.

S-01

図面名

コンテナ置場_構造特記仕様書

縮尺

non scale

岡山市市場事業部

令和7年4月

課長

主幹

課長補佐

副主査

課員

担当者

建築

課長

主幹

課長補佐

副主査

課員

担当者

承認

機関

製図

設備

課長

主幹

課長補佐

副主査

課員

担当者

承認

機関

製図

株式会社ユー・ディ・ディ設計
岡山市東区東一丁目3番10号
TEL 086-273-2261 FAX 086-273-2262
一級建築士事務所登録 岡第12147号
登録建築士 中田 智之

構造設計担当書
構造一級建築士第4007号
一級建築士第243674号 木村慎司

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

§ 1 一般共通事項

1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径 (D)			使 用 箇 所
		SD295A D16以下	SD295B SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	
180°					柱・梁の主筋及び杭基礎の ベース筋並びにD16以上の 鉄筋
135°					あばら筋、帯筋、スパイラ ル筋、D13以下の鉄筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T形及びL形の梁のあばら筋 T形及びL形の梁のあばら筋
135° 及び 90°					幅止め筋
90° 以下		4 d 以上 (5 d 以上)	6 d 以上 (6 d 以上)	8 d 以上 (8 d 以上)	その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径
2. dは、呼び名に用いた数値
3. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端部の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
4. 5d又は6dは、() 内を適用する。

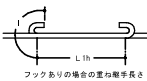
1. 2 鉄筋の継手

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（「鉄筋の継手の構造方法を定める件」（平成12年5月31日 建設省令第1463号）に適合する機械式継手）とし、適用は特記による。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）7.6.5〔部材の組立〕（d）及び7.6.7〔溶接施工〕格等〕に準じ、工事に相当した技量を有する者とする。
- 重ね継手は、次による。

- なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- 主筋及び耐力鉄筋の重ね継手の長さは、突起による。特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。
- 2）1）以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295A SD295B	18	4.5 d	3.5 d
	21	4.0 d	3.0 d
	24、27	3.5 d	2.5 d
	30、33、36	3.5 d	2.5 d
SD345	18	5.0 d	3.5 d
	21	4.5 d	3.0 d
	24、27	4.0 d	3.0 d
	30、33、36	3.5 d	2.5 d
SD390	21	5.0 d	3.5 d
	24、27	4.5 d	3.5 d
	30、33、36	4.0 d	3.0 d

(注) 1. L1、L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL1hは、下記に示すようにフック部分Iを含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



1. 3 隣り合う継手の位置

- 隣合う継手の位置は下記表による。但し、壁の増設及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。
なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に出せる場合は、特記による。

重ね 継手	フックありの場合	フックなしの場合
圧接継手		
	a ≧ 0、5 L1h	a ≧ 0、5 L1h
機械式継手		
	a ≧ 400 mm	a ≧ 0、5 L1

1. 4 鉄筋の定着

1. 4. 1 鉄筋の定着長さ

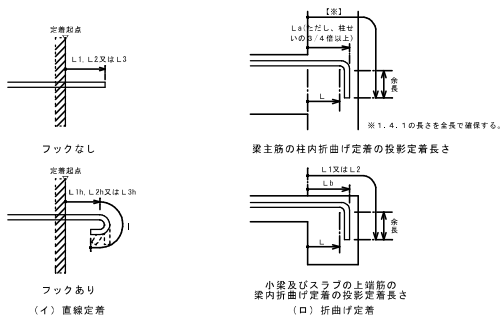
- 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と下記表の定着長さのうち大きい値とする。
- 2）1）以外の鉄筋の定着の長さは、下記表による。

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	フックなし		フックあり	
		L1	L2	L1h	L2h
SD295A SD295B	18	4.5 d	4.0 d	3.5 d	3.0 d
	21	4.0 d	3.5 d	3.0 d	2.5 d
	24、27	3.5 d	3.0 d	2.5 d	2.0 d
	30、33、36	3.5 d	3.0 d	2.5 d	2.0 d
SD345	18	5.0 d	4.0 d	3.5 d	3.0 d
	21	4.5 d	3.5 d	3.0 d	2.5 d
	24、27	4.0 d	3.5 d	3.0 d	2.5 d
	30、33、36	3.5 d	3.0 d	2.5 d	2.0 d
SD390	21	5.0 d	4.0 d	3.5 d	3.0 d
	24、27	4.5 d	4.0 d	3.5 d	3.0 d
	30、33、36	4.0 d	3.5 d	3.0 d	2.5 d

(注) 1. L1、L1h：2. 以外の鉄筋定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L2、L2h：引張鉄筋の定着の長さ（引張り鉄筋の引張り力を受けるフックあり定着の長さ）
3. L3：小梁及びスラブの下端筋の鉄筋の定着の長さ。ただし、基礎側スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
4. L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、1. 4. 2に示すようにフック部分Iを含まない。また、中間筋での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

1. 4. 2 定着の方法

- 定着の方法は下記による。
- 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、1. 4. 1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を1. 4. 1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上）をのみみさせる。

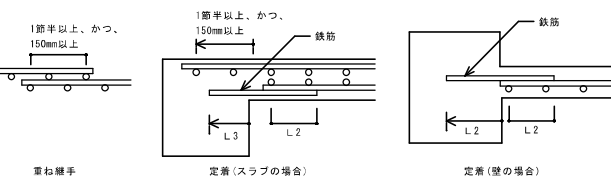


鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	L _a	L _b
SD295A SD295B	18	2.0 d	1.5 d
	21	1.5 d	1.5 d
	24、27	1.5 d	1.5 d
	30、33、36	1.5 d	1.5 d
SD345	18	2.0 d	2.0 d
	21	2.0 d	2.0 d
	24、27	2.0 d	1.5 d
	30、33、36	1.5 d	1.5 d
SD390	21	2.0 d	2.0 d
	24、27	2.0 d	2.0 d
	30、33、36	2.0 d	1.5 d

(注) 1. L_a：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを要。）
2. L_b：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

1. 4. 3 溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は下記による。なお、L2及びL3は、1. 4. 1の（注）による。



1. 5 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

1. 5. 1 鉄筋の最小かぶり厚さ

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。
- 貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。
- 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

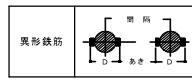
構 造 部 分 の 種 別	最小かぶり厚さ	
	仕 上 げ 有 り	仕 上 げ な し
土 に 接 し な い 部 分	スラブ・耐力壁 以 外 の 壁	20
	柱	30
	梁	30
	耐力壁	30
土 に 接 す る 部 分	柱、梁、スラブ、壁	≧40
	基礎、擁壁、耐力スラブ	≧60
煙突等高温を受ける部分		60

(注) 1. 4部のかぶり厚さは普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上りあり」とは、仕上り厚の存在を意味する。鉄筋の最小かぶり厚さがない仕上り（仕上り材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び高さで基礎土に接する部分の最小かぶり厚さは、普通コンクリートの厚さを要しない。
4. 柱、梁の隅部のかぶり厚さは、隅部から、隅部から隅部までの距離、特記による。
5. 煙突等高温を受ける部分の存在を要する。隅部から隅部までの距離、特記による。

1. 5. 2 鉄筋の間隔

- 鉄筋相互のあきは、下記の値のうち最大のもの以上とする。

- 1) 用骨材の最大寸法の1. 25倍
- 2) 25 mm
- 3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名に用いた数値）の1. 5倍
- 4) 鉄筋鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきは上記（1）～（3）のうち最大のもの以上とする。



(注) D：鉄筋の最大径

§ 2 基礎及び基礎梁の配筋

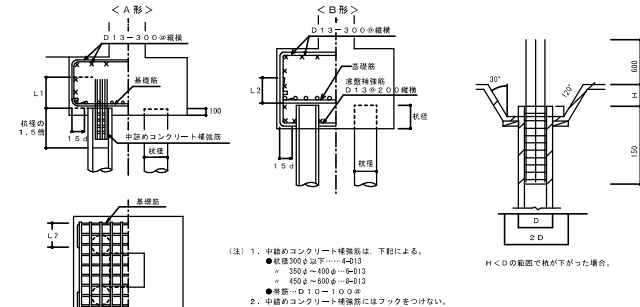
2. 1 基礎の配筋

2. 1. 1 一般事項

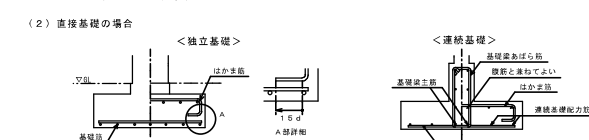
- 杭基礎のはかま筋は縦筋、横筋ともD13～300※を標準とする。
- 地盤の種類及び厚さは特記する。ただし除コンクリート厚さ50mm、砂利地盤厚さ60mmを標準とする。

2. 1. 2 基礎の配筋及び杭基礎の配筋

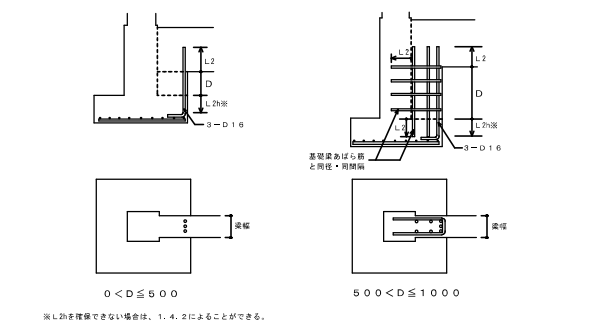
- 杭基礎の場合



2. 2 基礎梁の配筋



2. 2 基礎梁の配筋

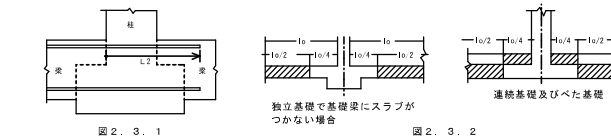


※L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

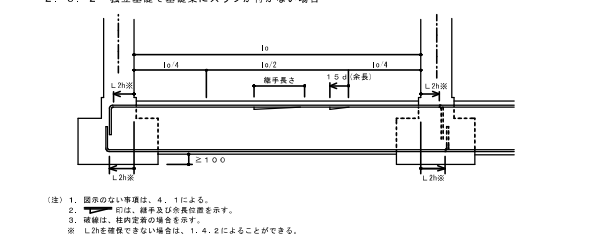
2. 3 基礎梁筋の継手、定着及び余長

2. 3. 1 一般事項

- 筋筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図2. 2. 1による。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、4. 1. 1 (3)による。
- 継手中心位置は図2. 3. 2の斜線部分とする。

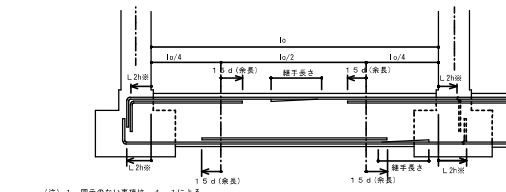


2. 3. 2 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



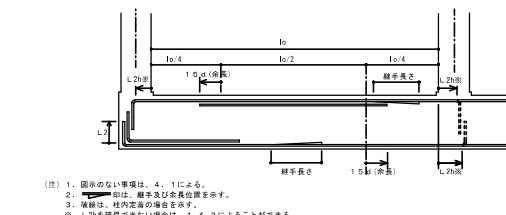
(注) 1. 図中のない事項は、4. 1による。
2. 柱の隅部には、継手及び余長の規定を要する。
3. 横筋は、柱内定着の場合を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

2. 3. 3 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合（耐圧スラブが付く場合は、2. 3. 4による）



(注) 1. 図中のない事項は、4. 1による。
2. 柱の隅部には、継手及び余長の規定を要する。
3. 横筋は、柱内定着の場合を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

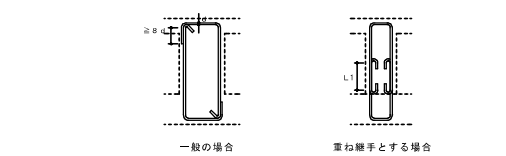
2. 3. 4 連続基礎及びべた基礎の場合



(注) 1. 図中のない事項は、4. 1による。
2. 柱の隅部には、継手及び余長の規定を要する。
3. 横筋は、柱内定着の場合を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

2. 4 基礎梁のあばら筋

- あばら筋組立の形及びフックの位置は、4. 2. 2による。
- 梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1. 6 m以上の場合は、下図によることができる。

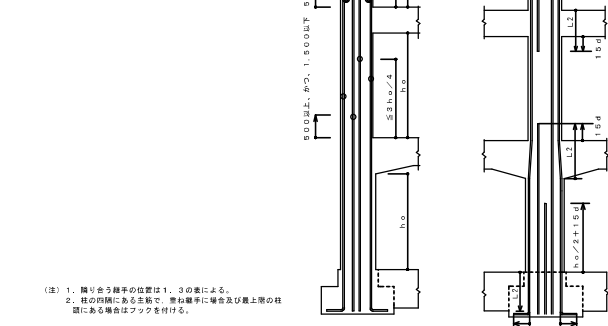


§ 3 柱

3. 1 柱筋の継手及び定着

3. 1. 1 一般事項

- 継手中心位置は、梁上端から500 mm以上1, 500 mm以下、かつ3 h₀ / 4（h₀は柱の内法高さ）以下とする。
- 柱筋定着長さL2が確保できない場合は、構造計算等により必要長さの確保を行うものとする。
- 柱筋柱主筋について、梁上端主筋との取合いを考慮し、適切なかぶり厚さを確保する。

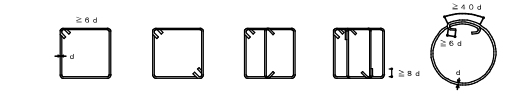


(注) 1. 隣り合う継手の位置は、1. 3の値による。
2. 柱の隅部には、継手及び余長の規定を要する。
3. 横筋は、柱内定着の場合を示す。
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

3. 2 帯 筋

3. 2. 1 帯 筋

- 帯筋の種類及び間隔は、特記による。
- 帯筋組立の形は、特記がなければ、下記による。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 上下の柱断面形状が異なる場合は、帯筋は、一般の帯筋より1サイズ大きい鉄筋又は同径のものを2本重ねたものとする。

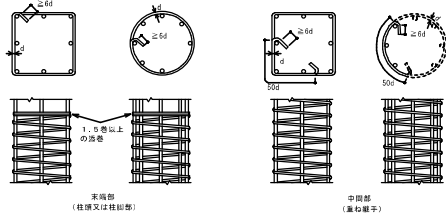


構造設計担当者
構造一級建築士第4087号
一級建築士第24574号 木村誠司

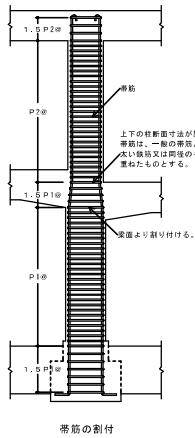
工事名	岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事				No.	
図面名	コンテナ置場_RC構造配筋標準図(1)				S-0 2	
建 築	岡山市市場事業部				令和7年4月	
	課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当
設 備	課 長	主 幹	課長補佐	副主査	課 員	担当
	承認	検印	検印	検印	検印	検印

株式会社 U・D・D 設計
株式会社 U・D・D 設計
岡山県岡山市東区 7-1-10
一級建築士事務所 岡山市 1-2-14-7号
一級建築士 中田 智之

(5) スパイラル筋の継手及び定着



(6) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする範囲は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。



§ 4 梁

4. 1 大ばり筋の継手、定着及び余長

4. 1. 1 一般事項

- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より梁せい(D)以上とし、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことのできない場合は、(3)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は右図による。
- (3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
- なお、定着の方法は、1. 4. 2による。
- 上端筋：曲げ降ろす。
- 下端筋：原則として曲げ上げる。
- (4) 段違いは、図4. 1. 1によることができる。
- (5) 梁主筋の重ね継手は、梁の出隅及び下端の隅端(図4. 1. 2の●印)にある場合はフックを付ける。ただし、基礎梁を除く。

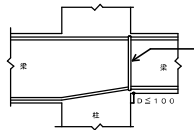


図4. 1. 1

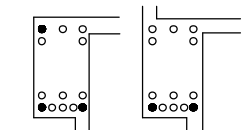
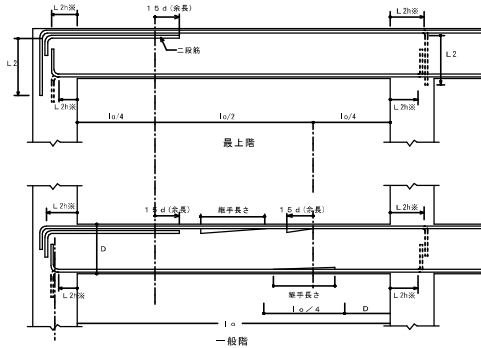


図4. 1. 2

4. 1. 2 ハンチのない場合

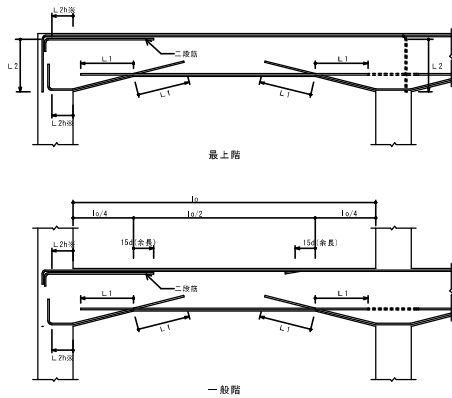
- (1) 継手中心位置は、下記による。
- 上端筋 — 中央 $l_0/2$ 以内
- 下端筋 — 柱面より梁せい(D)以上とし、 $l_0/4$ を加えた範囲以内
- (2) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 鉄筋は柱内定着の場合を示す。
- ※ $L/2$ を確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

4. 1. 3 ハンチのある場合

- (1) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



- (注) 1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 梁内定着の端部下地筋が確認するときは、.....のように引き通すことができる。
3. 鉄筋は柱内定着の場合を示す。
- ※ $L/2$ を確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

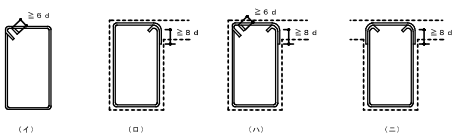
4. 2 あばら筋、腹筋及び幅止め筋

4. 2. 1 一般事項

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
- (2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10～1,000@程度とする。
- (3) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- (4) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、 $L/2$ とする。

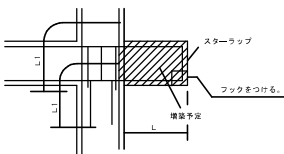
4. 2. 2 あばら筋屈曲の形及びフックの位置

- (1) 形は、下図(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- (2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。



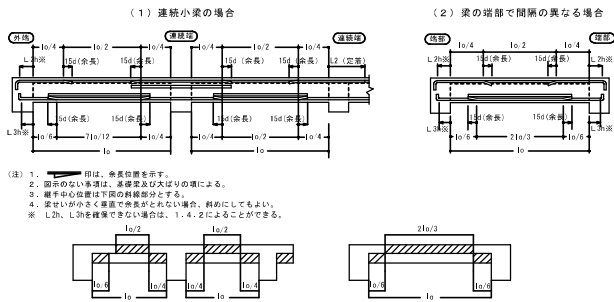
4. 3 増築予定がある場合

- (1) 圧接の場合 $L=1,000$ 、重ね継手の場合 $L=1+0.5L1$
- (2) 増築取合せ部分の梁主筋は増築用梁まで延長することなく柱にアンカーする。
- (3) 下図ハッチ部分はスタイロホームを入れてコンクリートを打設又はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。



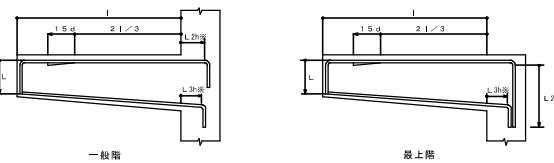
4. 4 小梁及び片持ち梁

4. 4. 1 小梁



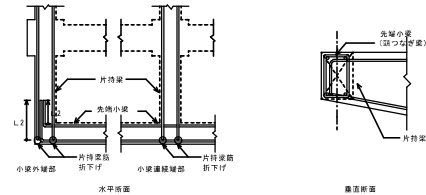
4. 4. 2 片持ち梁

(1) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 図示のない事項は、大ばりの項による。
2. 印は、余長を示す。
3. 先端の折曲げの長さ L は、梁せいから必要厚さを引いた長さとする。
- ※ $L/2$ 、 $L/3$ を確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

(2) 先端に小梁がある場合

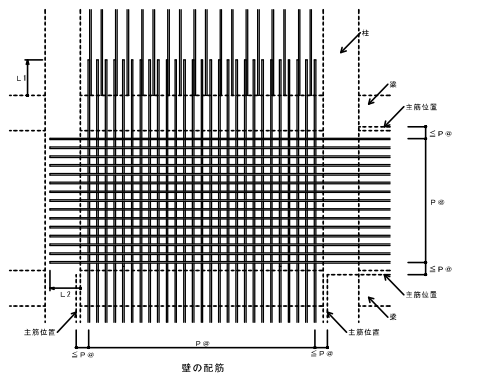


- (注) 1. 図示のない事項は、(1)による。
2. 先端小梁が腹筋の位置は、片持梁内に定着させる。
3. 先端小梁の基礎壁は、片持梁の先端を通過する通し筋としてよい。

§ 5 壁

5. 1 壁筋の継手及び定着

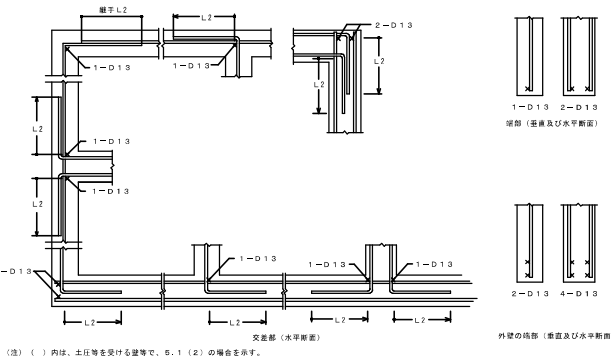
- (1) 壁配筋の重ね継手は $L1$ 、定着の長さは $L2$ とする。
- (2) 幅止め筋は、縦横共D10～1,000@程度とする。
- (3) 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはけない。
- (4) 下図のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。



5. 2 パラレットの配筋



5. 3 交差部及び端部の配筋

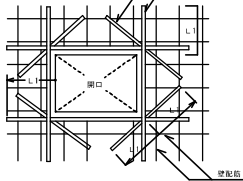


5. 4 壁開口部の補強

- (1) 壁開口部の補強は、A形又はB形とし、特記がなければB形とする。ただし、耐震壁を除く。

壁の種類	A 形		B 形	
	補 強 筋	斜 め	補 強 筋	斜 め
W12、W15	1-D13	1-D13	W12、W15	2-D13
W18、W20	2-D13	2-D13	W18、W20	4-D13

- (2) 壁開口部補強筋の定着長さ

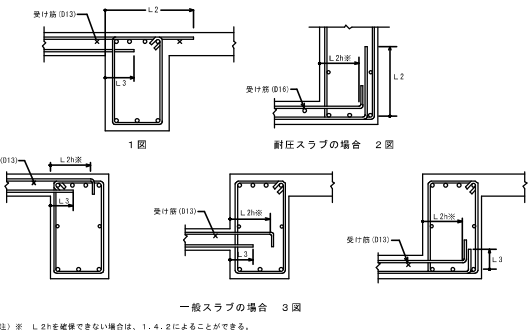


- (3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は敷筋を壁やに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

§ 6 スラブの配筋

6. 1 スラブ筋の継手及び定着

- (1) 鉄筋の重ね継手長さは、 $L1$ とする。
- (2) 定着長さ及び受け筋は、1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3図により梁内に定着する。



- (3) 継手中心位置は下記表による。

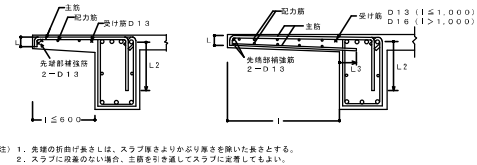
		標準継手位置	
上 端 筋	短 辺 方 向	B・D	
下 端 筋	長 辺 方 向	A・B	
	東 方 向 共	A・C・D	

- (注) 1. 主筋下地筋継手中心はB、D部分を定めること。
2. 配筋下地筋継手中心はA、C部分を定めること。

6. 2 スラブの基準配筋

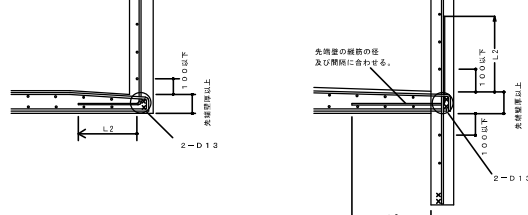
6. 2. 1 片持ちスラブ

(1) 先端に壁がない場合



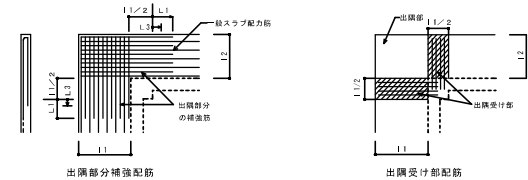
- (注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さより必要厚さを引いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

(2) 先端に壁が付く場合



垂れ壁のない場合

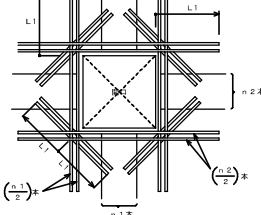
6. 2. 2 片持ちスラブ(出隅部)



- (注) 1. $L/2$ とする。
2. 出隅受け筋鉄筋は柱又は梁に $L1$ 定着する。

6. 3 スラブ開口部の補強

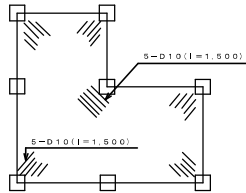
- (1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13(1=2L1)シングルの上下筋の内側に配筋する。
- (2) スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



6. 4 その他の補強

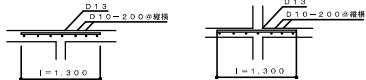
6. 4. 1 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び人間部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



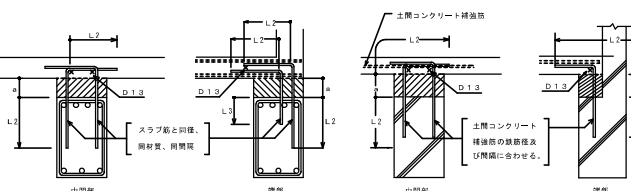
6. 4. 2 壁付きスラブ

- (1) スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。



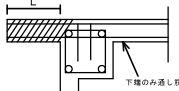
6. 4. 3 土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強

- (1) 土間スラブの打継ぎ補強



6. 5 増築予定がある場合

- (1) 継手長さL=L1+D、5L1
- (2) 増築取寄せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカーする。
- (3) 右図ハッチ部分はラスマルタルとし現場の状況に応じて指示する。

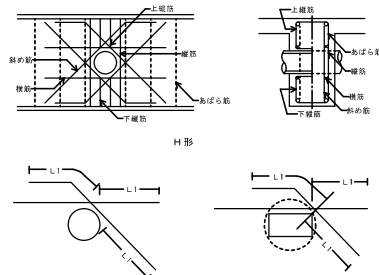


§ 7 梁貫通孔補強

梁貫通孔の補強はこの標準配筋により、孔の形状寸法および配筋種別は特記する。

7. 1 一般事項

- (1) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外推円とする。
- (2) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (3) 孔は、柱面から、原則として、1.5D(Dは梁せい)以上離す。
- ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
- (4) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (6) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。
- (7) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (8) 溶接金網の垂長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (9) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-1.3φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に4箇面以上溶接する。
- (10) 溶接金網の割付け地点は、横筋ではあばらの下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



7. 2 補強の形式と種類

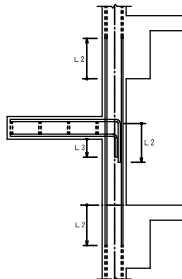
H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ----は、一部部分のあばら筋を示す。

§ 8 階段の配筋

8. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋	
配筋種別	配筋図
K A 1	
K A 2	
K A 3	
K A 4	



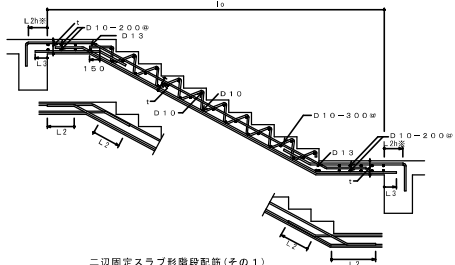
片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから壁に下ろす。

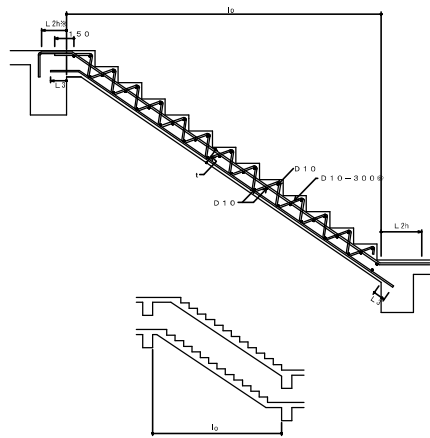
2. スラブ配筋面の継手及び定着の長さ、1. 4. 1 (2) のL2とする。

8. 1 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋	
配筋種別	上端筋、下縦筋とも(全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13、D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@



二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



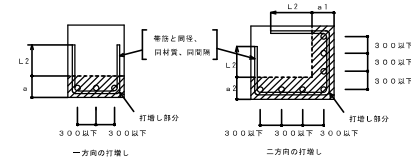
(注) 1. 右図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を適用する。

※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

§ 8 その他の補強

8. 1 柱の打増し補強

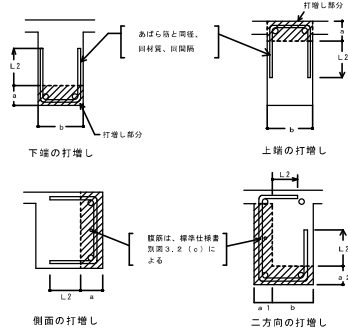


(注) 1. 柱の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

2. 平面と同一方向の補強筋は、あばら筋と同様、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

3. 斜方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

8. 2 梁の打増し補強



(注) 1. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

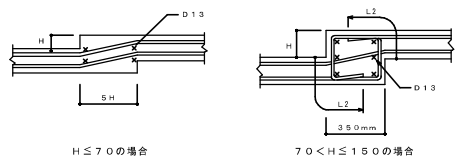
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同様、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

8. 3 壁の打増し補強



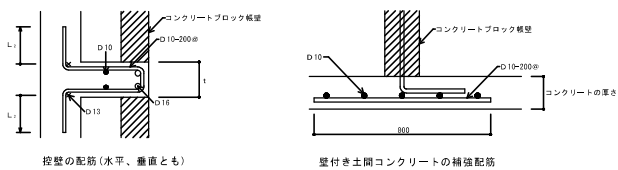
(注) 1. 壁の打増し幅(a)が50mm以上の場合の補強を示す。

8. 4 段差のあるスラブの補強



(注) 1. 150mm以下の段差のあるスラブの場合に適用。

8. 5 コンクリートブロック横壁との取合い



控壁の配筋(水平、垂直とも)

壁付き土間コンクリートの補強配筋

構造設計担当者
構造一級建築士第4087号
一級建築士第243674号 木村誠司

工事名		岡山市中央卸売市場コンテナ置場新築工事				No.		S-04	
図面名		コンテナ置場_RC構造配筋標準図(3)				縮尺	non scale		
		岡山市市場事業部				令和7年4月			
建築	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当者			
						図章 株式会社ユー・ディ・ディ設計 岡山支店 岡山市北区大井町1-1-1 TEL:090-9200-1100 FAX:090-9200-1101 一級建築士事務所 登録第12147号 一級建築士 第378849号 中田 智之			
設備	課長	主幹	課長補佐	副主査	課員	担当者	承認	検印	製図